

令和5年 4月 20日

令和4年度「熊本大学病院医療助成金」使用実績報告書

(一般財団法人恵和会寄附金)

使用者 (代表者)	氏名	所属	職名
	神波 大己	中央手術部	教授 (手術部部長)
グループ全員 *記入欄が不足する場合は、 別紙に記入	神波 大己	中央手術部	教授 (手術部部長)
	福井 寿啓	心臓血管外科	教授
	平田 直之	麻酔科	教授
	生田 義浩	中央手術部	准教授 (手術部副部長)
	高木 淳	心臓血管外科	特任助教
	日高 秀昭	心臓血管外科	医員
	田口 由美子	中央手術部	看護師長
	研究テーマ若しくは活動テーマ	手術室におけるVR (Virtual Reality) 技術を利用した教育の構築 ～2D映像とは異なる実写360度映像を用いたVR教育を取り入れ 効果的な知識や技術の習得に向けて～	
助成金額	200,000円	助成金使用総額	200,000円
使用内訳			
	消耗品	177,258円	(内訳) 360度動画カメラ、付属品
	旅費	0円	
	その他	22,742円	(内訳) ハードディスク
<p>成果(※具体的な効果および自己評価も含め1,000字程度)</p> <p>心臓血管外科の手術はハイレベルの手技やスピード、救急患者や他診療科の血管損傷合併症に対する迅速な対応を求められる。同時に難易度の高い心臓血管外科の手術を担当することが看護師のモチベーションアップに繋がる。3D教育教材を作成するために何度も撮影を行った。その過程で習得意識が芽生えてきて、看護師6人が手順と手技を習得し、担当として手術に貢献できるようになった。同時に緊急手術を断らないという多職種とも協働した意識を高く持ち、手術件数増加(別紙あり)にも貢献することができた。特に心臓血管外科や循環器内科の手術件数も増加している。緊急手術も増加し病院の経営に大きく貢献できたと考える。手術件数は増加しているにも関わらず、術中における重大な事故は発生していない。患者にも安全で安心な医療を提供することができた。</p> <p>3次元での360度動画での学習は術野や術者の操作、助手の動き、器械だし看護師の動き、麻酔科医師と外回り看護師の動きも知ることができる。VRとは五感に働きかけることで、実際には存在しない空間や物を現実と認識させる技術である。このデジタル技術は、机上や対面の教育を補完するだけではなく、時間や場所に制約されず繰り返し学習ができ、教育する側の負担軽減といった既存の教育課題を乗り越える可能性も秘めている。また、当院は心臓血管センターが設置されており、循環器疾患患者の重症および救急な患者を対象とした内科、外科、救急の集学的先進医療を行う役割を担っている。その役割を果たすために今後も医師、看護師、コ・メディカルスタッフ・学生育成に効果的なVR教育教材を工夫して教育環境を整えていきたい。また、院内においてもパイロット的な取り組みの一つと考えている。機会があれば発表して広めていきたい。</p> <p>2D映像とは異なる実写360度映像を用いたVR教育教材を作成している中で、研究的視点としても有用性が明確になることで、更に効果的な実践に繋がると考えた。チームを作り研究にも取り組んでいる。「疫学・一般部門倫理委員会」に申請中で、今年度の手術看護学会年次大会で発表予定である。</p>			